

教 職 員 の コ ー ナ ー

任期を終えるにあたり

村上 里美

釜山日本人学校へ赴任してきてから3年がたとうとしています。先日のPTA総会でもお話ししましたが、あっという間だったような、長かったような不思議な時間でした。

この3年間、自分自身が、健康で、子ども達と楽しく充実した時間を過ごせたことをとても幸せに思います。

3年間の中で、一番大きな行事は、やはり30周年記念式典だったのではないのでしょうか。式典には、多くの歴代の先生方が駆けつけて下さいました。先生方から、そんなに遠くない昔、日本と韓国の関係がまだ難しく、学校の名前を門に掲げられなかったり、バスや電車の中では日本語を話すことを控えなければならなかったりと今の私たちの生活からは想像できない苦労をたくさんされたお話を伺いました。その他、式典の準備の中でうれしかったこともあり、校歌を作詞した松尾清子先生へ子ども達が手紙を出したら、お返事をいただいたことです。校歌誕生の秘話と共にいつまでも釜山の思い出を大切にしていってほしいことに感動しました。現在は80歳を越えられたとのお話でしたが、いつまでもお元気でいていただきたいなと思います。

釜山日本人学校は、一本の大きな大きな木のような気がします。たくさん子どもたちや保護者、教員がそこに集いまた飛び立っていく。そして、大きな木の歴史に一人ずつが刻まれていくのだと思います。わたしもここ釜山日本人学校から新しい場所へ飛び立つ時がきました。またいつか戻ってこられたらと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、いつもあたたかい声をかけていただき、本当にありがとうございました。子ども達の成長を共に見守ってこられたことをとても幸せに思います。そして、これから子ども達の笑顔のためにがんばっていきたく思います。また、お会いできる日を楽しみにしております。ありがとうございました。

子ども達から学んだこと

鎌田 実

早いもので釜山日本人学校に赴任して3年がたちました。最初は「日本に近いなあ。異国に憧れていたのに、刺激がないなあ。」などと、ふとどきなことを思っていました。今思い返せば日本では経験できないことをたくさん経験させていただきました。

小中併置校、少人数学校、異なる生育歴、日本人会立の私立学校、出会いと別れの多さ...。日本との違いを数え上げればきりがありません。その中で特に忘れられないことは、突然の子どもとの別れです。「さよなら」も言えなかった別れが、私の学級でもありました。朝「～さんは、転校した。」と管理職から聞いたときのやるせなかったこと。私は「もっと何かをしてあげたかった。」と強く思いました。しかし、その時気付いたのです。「では、今ここにいる子どもたちがもし、明日から来なくなったら、十分な教育をしたと胸をはって言えるだろうか...。」と。それまで自分には、子どもが学校に来ることは当たり前という、教員としてのおごりというか、甘えのようなものがあって思い知らされました。「子どもが学校に来ることは当たり前ではない。だから1日1日をもっと大切にしなければいけない。」と思うようになりました。その姿勢は、日本に帰っても忘れず大切にします。釜山日本人学校の子供達から学んだ、たくさんの中の一つです。

私はこの3年間で、それまでどちらかという敬遠していた韓国と韓国人たちが好きになりました。また、日本ってすごい国なんだと誇りに思うと共に、原籍校(私の日本の学校)が目指している教育は間違っていないと実感しました。必ずしも安らかなことばかりではない3年間でしたが、釜山の生活に心から感謝しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、そして日本人会の皆様には、公私共に大変お世話になりました。ありがとうございました。